

京都市告示第 246 号

京都市名誉市民表彰条例の規定に基づき、平成19年10月15日付けで次の者を京都市名誉市民として表彰しました。

平成19年10月19日

京都市長 榊 本 頼 兼

住 所 京都市上京区中筋通石薬師上る大猪熊町346番地

氏 名 茂 山 七五三 (四世茂山千作)

生年月日 大正8年12月28日生

1 略歴

大正13年10月	京都金剛能楽堂において初舞台
昭和41年1月	十二世茂山千五郎を襲名
昭和58年5月から	社団法人日本能楽会理事
昭和60年4月まで	
昭和60年5月から	社団法人日本能楽会常務理事
昭和62年4月まで	
平成元年5月	重要無形文化財保持者として各個認定される
平成3年12月	日本芸術院会員
平成6年7月	四世茂山千作を襲名

2 受賞

昭和57年1月	芸術祭大賞
昭和58年3月	芸術選奨文部大臣賞
昭和58年11月	京都市文化功労者として表彰される
昭和60年11月	紫綬褒章
平成3年11月	勲四等旭日小綬章

平成5年3月 京都府文化賞特別功労賞
平成10年3月 NHK放送文化賞
平成12年11月 文化功労者として顕彰される
平成13年11月 朝日賞

3 業績

氏は、大正13年、幼少にして初舞台を踏まれ、80余年の長きにわたり、能狂言師として第一線で活躍し、能狂言大蔵流の伝承と発展に大きく貢献された。

重要無形文化財保持者として各個認定されているその舞は、天下一と称され、あまたの人々を魅了し、我が国における能狂言界の第一人者として高く評価されている。

さらに、新作狂言の上演や埋もれた旧作狂言の復活をはじめ、全国の学校巡演や海外公演にも力を注がれ、演劇、テレビ等においても積極的な活動を展開されるなど、現在の狂言ブームの基礎を築かれた。

また、昭和32年の第1回開催以来、200回余にわたり開催し、本年50周年を迎えた「市民狂言会」の創設に尽力され、現在においても精力的に出演されるなど、市民が能狂言を身近に鑑賞し、楽しむことのできる環境づくりを通じて、市民文化の向上に大きく寄与されている。

住 所 京都市右京区嵯峨鳥居本仏餉田町7番地の1

氏 名 瀬戸内 寂 聴

生年月日 大正11年5月15日生

1 略歴

昭和18年9月 東京女子大学国語専攻部卒業

昭和48年11月 関山中尊寺において得度 法名「寂聴」

昭和62年5月から
八葉山天台寺住職
平成18年6月まで
昭和63年4月から
敦賀女子短期大学学長
平成4年3月まで
平成19年3月から
比叡山延暦寺一山非法人寺院禅光坊住職
現 在まで

2 受賞

昭和32年1月 新潮社同人雑誌賞
昭和36年4月 田村俊子賞
昭和38年4月 女流文学賞
昭和59年11月 京都市文化功労者として表彰される
平成4年10月 谷崎潤一郎賞
平成5年3月 京都府文化賞特別功労賞
平成8年3月 芸術選奨文部大臣賞
平成9年11月 文化功労者として顕彰される
平成10年3月 NHK放送文化賞
平成12年10月 徳島市名誉市民
平成13年12月 野間文芸賞
平成14年1月 大谷竹次郎賞
平成18年1月 イタリア国際ノーノー賞
平成18年11月 文化勲章
平成19年1月 徳島県県民栄誉賞

3 業績

氏は、昭和31年に処女作を発表されて以後、50余年の長きにわたり、自立し

た女性の生き方を描いた数多くの作品を執筆され、その作品群はいずれも高く評価されており、小説家としての確固たる地位を築かれた。

さらに、昭和49年には京都に庵^{いおり}を結ばれ、小説はもとより、随筆や能、歌舞伎、浄瑠璃、オペラなどの台本に至るまでの多彩な創作活動を続けてこられるとともに、平成10年には、ゆかりの地の多くが京都に存在し、来年千年紀を迎える「源氏物語」の現代語訳を完成された。

また、全国各地において数々の説法や講話を行い、悩みを抱える多くの人々に生きる希望を与えてこられた。

これらの功績により、平成18年11月には文化勲章を受章された。

現在においても、氏をはじめとした8名の有識者の呼び掛けにより、本市、京都府、宇治市、京都商工会議所等が中心となって、平成19年1月に設立された「源氏物語千年紀委員会」において、先導的な役割を担われるなど、多方面にわたり精力的に活動されている。

(総合企画局市長公室秘書課)